

(有)両丹いきいきファーム 代表取締役

中田義孝さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「茶産地を衰退させることなく、次の世代につないでいきたい。そんな一心で法人を立ち上げて、13年が過ぎた。高品質の茶や農産物を消費者の皆さんに届ける気持ちは変わらないが、経営を継続していくためには、常にチャレンジする気持ちを忘れてはならない」と話すのは、綾部市位田町の農業法人「両丹いきいきファーム」代表取締役の中田義孝さん(66)だ。



▶茶産地を守り、担い手育成や野菜販売、6次産業化など目標達成へ頑張る中田さん

茶を柱に複合めざす

に激減していた。「このままでは茶産地が消滅してしまうという危機感だった」と中田さんは当時を振り返る。

後継者不足で遊休茶園が増えていく中、法人化して受け皿となり、経営感覚を持って農業に取り組むことが重要と考え、6人の仲間と法人化に踏み切った。当初の1畝から、現在は8畝まで生産面積は拡大している。

中田さんは将来を見据えて、

雇用により若い担い手の育成にも力を注ぐ。従業員を雇用すると、年間を通じた収益確保が必要になる。そのため、茶生産を

中心にした複合経営を11年からスタートさせた。JA京都にのくへの指導を受け、茶の農閑期に京のブランド産品の「京夏ずきん」「紫ずきん」や「万願寺甘とう」の他、キャベツ、ホウレンソウなど多品目の冬野菜を生産する。「販売はJAの農産物直売所『彩菜館』へ出荷している。消費者の生の声を聞くことができ、励みになる」と話す。

府立農業大学校の卒業生と中田さんの娘2人の社員に加え、労働力の確保と国際貢献を図る

ため、JAグループ京都が取り組む外国人技能実習事業でカンボジアから2人の実習生を受け入れている。

中田さんの娘は、6次産業化として同市の「あやべ特産館」内に新店する「綾茶カフェ」を切り盛りする。玉露や煎茶を提供する他、てん茶を使ったソフトクリームが好評だ。

中田さんは「これからの農業は生産するだけでなく、流通にも関わり、人づくりにも取り組む経営者となることが大切だ。茶を経営の柱に据えて、いろいろな農業経営の可能性に取り組んでいきたい」と話す。

■法人所在地 綾部市位田町岡倉88の1。(電)0773(21)4091。

■法人概要 2003年8月設立。役員3人、監査役1人。社員2人、外国人技能実習生2人、農繁期にパートタイマー4〜8人。事務所・作業場256平方メートル。茶8畝、黒大豆エダマメ4・5畝、水稲2・5畝、冬野菜28畝(うちハウス5棟)。